

ISOを知る、伝える、広げる、会報誌

ISO NET

BL-QE

center for better living



Vol.77

ISO9001:2008発行予定 日本語版 JIS Q9001:2008も 年内に発行の予定

●Seminar Report

「長期使用製品安全点検制度」の解説と
情報管理システムについてのセミナー報告

●北から南から

・新規登録組織 7月度:4件、8月度:6件、9月度:5件
・登録証交付式には、4社にご出席いただき、
喜び、抱負のお言葉をいただきました。

●The Next of ISO.1

連載にあたって

(財)ベターリビングシステム審査登録センター センター長 有馬 正子
・感謝の気持ちをこめて・規格と制度の未来について
・有効性審査、付加価値審査の目的は

●BL-QE Information

経産省「マネジメントシステム規格認証制度の
信頼性確保のためのガイドライン」を公表

●ISOで進化する組織紹介

菅野建設株式会社

・ISOは企業成長の糧。技術力の証でもある。
・企業を見つめ直す目標。検証しながら前に進む。
・今後は今まで以上に環境を意識。EMS認証取得をめざす

●審査員の目

「EMSの有効活用のために」

○品質・環境マネジメントシステム 主任審査員 小野隆範

●Training Report

品質・環境マネジメントシステム審査員研修会報告

写真:菅野建設株式会社の社屋のケヤキ(福島県の“県の木”)

マネジメントシステムは、
信頼に応えるための「証」。



財団法人 **ベターリビング**
システム審査登録センター (BL-QE)

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-36 FUJIMI WEST TEL:03-5211-0765 FAX:03-5211-0594

<http://www.cbl.or.jp/>

ISO NET (Center for Better Living) 2008年(平成20年)11月7日発行 Vol.77

ベターリビング

検索

ISO9001:2008発行 日本語版 JIS Q9001:

ISO9001:2000は、要求事項の明確化、ISO14001との整合
ISO9001:2008に改訂され、2008年11月に発行される。

8年間に世界170の国で100万*1の
認証書を発行してきたISO9001:
2000は、要求事項の明確化、
ISO14001との整合性向上を目的に、
ISO9001:2008に改訂され、2008年
11月15日に発行される。

今回の改訂による新たな要求事項
の追加はなく、ISO9001:2000の意
図を正しく理解して品質マネジメン
トシステムを構築・運用している組
織は大きな修正を必要とせず、小
規模な修正で新規格での審査を受け
られる。

このISO9001:2008年版の発行に
伴い、発行後12ヶ月が経過した時点
で2000年版の認証発行が終了となり、
発行後24ヶ月の移行期間が終了した
時点で2000年版の認証書は、記載さ
れている有効期限にかかわらず無効
となる。

『ISO9001:2008規格改訂 にもなう移行説明会及び ISOマネジメントシステム活用 セミナー』を開催

(財) ベターリビング システム審

査登録センターでは、ISO9001:
2008の改訂点と、当センターにお
ける規格への移行の方法について
の説明会を11月6日の札幌を皮切
りに、最終11月27日の鹿児島まで
全国8会場で開催する。

この説明会には、有馬センター
長、又は東ヶ崎センター次長が同
行。「ISOマネジメントシステム
の有効活用」と題して、事業の発
展を支援するISOマネジメントシ
ステムの効果的活用と(財) ベター
リビング システム審査登録セン
ターの新しい対応についての講演
も予定されている。

さらに、国などの公共工事だけ
でなく、地方自治体の工事にも本
格的な導入が始まった新しい落札
方式、総合評価落札方式に対し、
「公共工事の総合評価落札方式へ
の対応について」と題した解説も
行われる。

セミナー後には、懇親会が予定
され、疑問点や問題点、ISOマネ
ジメントシステムの活用方法等、気
軽に相談できるひとときを設けて

ISO9001:2008発行

ISO9001:2008認証発行:サーベイランス、更新審査

12ヶ月

12ヶ月

ISO9001:2000認証発行

ISO9001:2000認証有効

ISO9001:2000 認証発行終了

ISO9001:2000 認証失効

*1の数値及び上記図は「ISO and IAF announce schedule for implementation of accredited certification to ISO9001:2008」
(2008年8月20日)による

予定 2008も年内に発行の予定

合性向上を目的として、

いる。登録組織間の横のコミュニケーションの場として、ISOマネジメントシステム運用・維持の苦勞について語り合うことができそうだ。

お申込みは、(財)ベターリビングシステム審査登録センター
企画管理室 担当/坂口、山賀まで
連絡先：TEL 03-5211-0765

※詳細については、送付される(財)ベターリビングシステム審査登録センターからの移行説明会のご案内、ベターリビング・ホームページをご覧ください。

内容：ISO9001:2008の改訂点、移行手続きの説明(60分)

(財)ベターリビングシステム審査登録センター 企画管理室長 吉田 浩之 他

公共工事の総合評価落札方式への対応(20分)

(財)ベターリビング 普及推進部 堤 雄大
(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡、鹿児島)

有効なISOのあり方について(40分)

(財)ベターリビングシステム審査登録センター長 有馬 正子
(東京、広島、大阪)

(財)ベターリビングシステム審査登録センター次長 東ヶ崎 清彦
(札幌、仙台、名古屋、福岡、鹿児島)

懇親会

開催日、会場：

11月 5日(水) 13:00~17:30	札幌	札幌経済センター	札幌市中央区北1西2
11月 6日(木) 13:00~18:00	仙台	ホテル白萩	仙台市青葉区錦町2-2-19
11月 7日(金) 13:00~18:00	東京	(財)ベターリビング 101会議室	千代田区富士見2-14-36 FUJIMI WEST
11月13日(木) 13:00~18:00	広島	RCC文化センター(B11会議室+7Fレストラン)	広島市中区橋本町 5-11
11月14日(金) 15:30~20:00	大阪	堺筋本町センタービル12F(懇親会:大阪国際ビル2F)	大阪市中央区本町2丁目1番6号
11月19日(水) 13:00~18:00	東京	(財)ベターリビング101会議室	千代田区富士見2-14-36 FUJIMI WEST
11月21日(金) 13:00~18:00	名古屋	コンベンションルームAP名古屋名駅	名古屋市中村区名駅4-10-25名駅IMAビル7階
11月26日(水) 13:00~18:00	福岡	(財)福岡県中小企業振興センター401会議室	福岡市博多区吉塚本町9-15
11月27日(木) 13:00~18:00	鹿児島	NCサンプラザAホール	鹿児島市東千石町2-30

会費：無 料

Seminar Report

「長期使用製品安全点検制度」の解説と情報管理システムについてのセミナー報告

平成21年に「長期使用製品安全点検制度」がスタート。 関連する、建設や販売などの組織に向けたセミナーを開催。

9月11日に「『長期使用製品安全点検制度』の解説と情報管理システムについてのセミナー」が東京(財)ベターリビング 本部 会議室で開催された。「長期使用製品安全点検制度」は、ガス製品など重大な事故が起きている9品目について、製造者が販売者、施工者等の協力により、製品の所有者情報を管理し、定めた期間でのメンテナンスを通知して点検を行うように経産省が定めた制度。これと

合わせ、所有者情報の管理の方法、情報セキュリティマネジメントシステムについての解説が行われた。製造業だけでなく、建築、販売など多くの組織からの参加があり、今後のこの制度の効果が期待されている。

※このセミナーの資料をお送りしております。ご希望の方は、企画管理室 坂口、山賀までご連絡ください。

北から南から

新規登録組織

■7月度	ISO9001	3件	ISO14001	1件	ISO27001	0件
■8月度	ISO9001	5件	ISO14001	1件	ISO27001	0件
■9月度	ISO9001	4件	ISO14001	1件	ISO27001	0件

詳しくは、ベターリビングホームページをご覧ください。

7
月度

ISO 9001 登録企業

株式会社 サンレール

●所在地/岐阜県不破郡 ●登録内容/アルミ手すり・アルミ笠木等アルミ製品の設計開発及び製造並びに施工 ●登録番号/Q1416

弥生建設 株式会社

●所在地/熊本県熊本市 ●登録内容/土木構造物の施工(水道施設工事、推進工事、土木一式工事、舗装工事) ●登録番号/Q1418

綿半テクノス 株式会社 駐車場事業部 東京事業所

●所在地/東京都新宿区 ●登録内容/駐車場の設計、施工 ●登録番号/Q1417

ISO 14001 登録企業

株式会社 ティーアップ

●所在地/茨城県石岡市 ●登録内容/屋外トイレのレンタル及び管理 ●登録番号/E319

8
月度

ISO 9001 登録企業

七福鋼業 株式会社 本社・滋賀工場(有限会社フェロー)

●所在地/大阪府大阪市 ●登録内容/建築用鋼製床版(ニューフェローデッキ)の製造、販売 ●登録番号/Q1419

前迫石材 株式会社

●所在地/鹿児島県鹿児島市 ●登録内容/建設物に関する石材の製造及び据付並びに墓石・石碑などの設計・製造及び据付 ●登録番号/Q1422

丸福建設 株式会社 本社

●所在地/鹿児島県鹿児島市 ●登録内容/土木構造物及び建築物の施工 ●登録番号/Q1420

コーアツ工業 株式会社

●所在地/鹿児島県鹿児島市 ●登録内容/(1)プレストレストコンクリート橋梁の設計及び施工(2)プレストレストコンクリートタンク及び鉄筋コンクリート橋梁の設計及び施工(3)土木構造物補修工事の設計及び施工 ●登録番号/Q1423

株式会社 リーチ開発

●所在地/鹿児島県鹿児島市 ●登録内容/土木構造物の施工及び付帯サービス ●登録番号/Q1421

ISO 14001 登録企業

大井建設 株式会社

●所在地/大阪府堺市 ●登録内容/建築物の設計及び施工 ●登録番号/E320

9
月度

ISO 9001 登録企業

久米工業 株式会社

●所在地/愛知県名古屋市長市 ●登録内容/アルミ製墜落防止手すり・エクステリア機器の設計・開発・製造及び施工 ●登録番号/Q1424

有限会社 仲地建設工業

●所在地/沖縄県宮古島市 ●登録内容/土木、構造物の施工及び付帯サービス ●登録番号/Q1426

九州ベアリング 株式会社

●所在地/福岡県北九州市 ●登録内容/産業用機器(伝動部品、油空圧製品等)、軸受、工作機械、溶接棒及び家電商品の販売 ●登録番号/Q1425

上毛緑産工業 株式会社 及び関連会社(国土緑化株式会社)

●所在地/群馬県北群馬郡 ●登録内容/法面工事の設計及び施工、並びに乾式コンクリート材料及び緑化工事用材料の製造 ●登録番号/Q1427

ISO 14001 登録企業

美浦ガス 株式会社 美浦事業所

●所在地/茨城県稲敷郡 ●登録内容/1.都市ガスの製造及び送出 2.ガス機器の販売、据付及び保守管理 3.オートガスの販売 4.LPガスの販売及び委託管理(配送、保守、検針等) ●登録番号/E321



ISO9001・14001・27001 認証登録

お喜びと抱負の言葉

7月度、8月度、9月度の登録証交付式においていただいた各組織の代表の方々のお言葉をご紹介します。紙面の都合により編集部で要約させていただきましたこととお詫びいたします。

※6月に認証登録したイワムラ株式会社鹿沼工場様は、今回の交付式に出席されました。

Q1414



イワムラハウス 株式会社 鹿沼工場
常務取締役 岩村 善普様

取得を機に、さらなる品質の向上を

私どもは栃木県鹿沼市で、羽柄のプレカット加工により、強度の高い木造住宅をお届けするために日々業務に励んでおります。この度、ISO90001の認証取得の報告を受けました際には、喜びで胸がいっぱいになりました。この取得が、お客様に対してのイメージアップとなっただけでなく、社員たちが一丸となってシステムの構築に取り組んだことで、一体感が生まれたことも大きなメリットです。社員たちの意識も大きく変わりました。この感動を忘れないとともに、取得が最終目的ではないことを心に刻み、さらなる品質とサービスの向上、そして社員の資質の向上をもって、お客様の様々なご要望に応じてまいりたいと考えております。

Q1416



株式会社 サンレール
代表取締役 廣瀬 宣雄様

ISOの取得は、お客様の信頼に応える証

当社はアルミ手すりの専門メーカーとして、開発から製造、販売、施工まで業務を行っております。創立36年の歴史の中で培ってきたノウハウや経験をマニュアル化し、一定の品質を維持する必要があると考え、ISO9001の認証取得にチャレンジいたしました。安心・安全をモットーにモノづくりを行い、現代のニーズに合うアルミ手すりを提供しつづけるとともに、品質を第一にしてオンリーワン企業をめざすことも取得の目的です。偽装問題が大きく取り上げられる今、お客様の信頼に応え、要求を満たす証として、ISOの取得は大きく役立つものと信じております。ISOマネジメントシステムを維持し、継続的な改善を行って、お客様の豊かな暮らしづくりに貢献してまいりたいと考えております。

E319



株式会社 ティーアップ
代表取締役 潮田 多計士様

業務の効率が良くなったことを実感

本業は運送業ですが、10年ほど前から仮設トイレのレンタル業も始めました。運送は土日の稼働が少ないのですが、仮設トイレのレンタルなら土日や休日を使うイベントに向けた業務ができるからです。順調に10年が経ち、去年、レンタル部門を別法人にして新たにスタートさせました。東京マラソンの会場には、600棟ほどのトイレを出させていただいております。トイレを扱っているのが、環境マネジメントシステムの認証取得をめざしました。取得して実感したことは、ミスが少なくなり、効率がよくなったことです。最初は、従業員やドライバーにとって面倒だったチェックリストも、今ではこれがないと仕事になりません。マネジメントシステムを導入して、本当によかったと感じております。

Q1417



綿半テクノス 株式会社
駐車場事業部 東京事業所
代表取締役社長 降幡 哲英様

取得はスタート。これからが本当の仕事

私どもは松本、静岡、飯田の工場で、一般鉄骨から特殊鉄骨までの製作・施工を手がける他、駐車場事業を展開しております。松本工場では、平成12年にISO9001の認証取得をいただきました。今ではマネジメントシステムが日常の業務の中にとけこみ、トラブルが減って、お客様からご注文をいただけるようになりました。駐車場事業においても、組織的な連携がとれないと業務がうまく運びません。そこで、さいたま市に関東営業所を開設することをきっかけに、思い切って認証取得に挑戦しました。この度の取得は駐車場事業部の新たなスタートといえます。マネジメントシステムを業務にマッチさせるためには、これからが本当の仕事になるからです。



連載開始にあたって

財団法人 ベターリビング

システム審査登録センター長 有馬 正子

感謝の気持ちをこめて

ISOマネジメントシステムの登録組織の皆様のお引きたてに心からお礼申し上げます。さて、ご存じの皆様もいらっしゃるかと思いますが、私は、ISOマネジメントシステムの専門誌月刊「アイソス」の2008年の4月号から9月号までの

6ヶ月間、建設業の特に中小規模の組織の皆様に向けて、ISOマネジメントシステムを有効活用していただくことを意図とした連載記事を書く機会を得ることができました。

執筆が無事終了したことに肩の荷がおりましたが、その内容については、一人よがりなものとはなっ

ていなかったか、誤った情報ではなかったかと気になっておりました。しかし、読まれた方から、グループ企業間でのISOマネジメントシステムの理解を深める為にこれを活

品質マネジメントシステムを 顧客満足強化・向上 さらに事業経営に役立たせる

用したいとお話を伺った時、読者の方をはじめ、連載記事に登場していただいた組織の皆様等ご協力していただいた方々への感謝の思いとともに、皆様のお役に立てるなら、これを継続していきたいという思いが起きました。

そのような思いから、本誌に場を

変えて連載するはこびとなりました。登録組織の皆様のISOマネジメントシステムに良い刺激となれば幸いです。

規格と制度の未来について

建築関係の技術者向け研修の講師を十年以上も継続されているある方からISOのマネジメントシステムについて、最近の動向を知りたいとお電話がありました。聞けば、その研修では、別の講師がISOマネジメントシステムの講義を担当していたが、今後は技術的部分を担当のご自身がISOマネジメントシステム部分も併せて講義されることになったとのことでした。

そこで、最近の動向としては、ISOの規格要求事項はISO9001については2008年版への改訂があるものの、マネジメントシステムの審査登録制度等については変更のないこと等をお伝えし、続いて、認証取得組織の中で、特に認証継続期間の長い組織においては、品質マネジメントシステムを品質保証

だけでなく、顧客満足強化・向上さらには事業経営にも役立つような使い方をしていることをお話ししました。

すると、「実は自分も同じような感覚をもっており、このことが確認できてよかった」とうなずかれました。認証組織や私たち審査機関にいるも

のだけでなく、それ以外の関係者の方々も、ISOマネジメントシステム規格の活用に「変化」を感じられていることに、この規格と制度に対しての明るい未来を多少の驚きとともに見た気がしました。実は、これが本来の使い方なのだと思いますが。

有効性審査、付加価値審査の目的は

しかし、この数年、ISOマネジメントシステム認証スキームにかか

品質保証と顧客満足が結果的に事業を継続させていく

わる関係者は、「認証組織におけるマネジメントシステムの有効性」や「認証組織にとって『付加価値のある審査』とは何か」を模索あるいは標榜しているところですが、これを考えるときに注意しなければならぬことがあります。それは、認証組織、審査機関（審査員を含む）及びコンサルタントが、

ISOマネジメントシステム（審査）のパフォーマンスとして、例えば、売上げアップ、コスト削減等事業経営そのものにだけ焦点を当てて

しまい、相対的に「品質保証」に関するシステムの構築・運用の部分をおざりにしてしまうのではないかということです。

これについては、顧客満足強化・向上等により顧客からのリピートを増やし、その結果が事業継続につながるという、まさによいサイクルを回している組織が存在していることから見れば杞憂に過ぎないかもしれませんが、「事業継続」は「品質保証」と「顧客満足の向上」からであることを忘れてはならないでしょう。

経産省「マネジメントシステム規格認証制度の信頼性確保のためのガイドライン」を公表

7月29日、経済産業省産業技術環境局 認証課から、「マネジメントシステム規格認証制度の信頼性確保のためのガイドライン」が公表された。

このガイドラインは、マネジメントシステム規格認証制度の信頼性を確保するために認定機関、認証機関をはじめとする関係者が取り組むべき事項を経済産業省としてとりまとめたものとなっている。主な項目は以下の通り。

①消費者の安全・安心、環境保全の達成、企業の社会的責任、行政施策の効率的推進などへの有効活用

②認証に係る不祥事の抑制

③社会的評価の高揚のための広報活動の強化

④国際的取り組みの先導を背景に、それぞれの取り組みガイドラインを提示している。

経済産業省は「財団法人 日本適合性認定協会（JAB）」、マネジメントシステム審査登録機関の協議会である「審査登録機関協議会（JACB）」などと、実効性のあるものとして、コミュニケーションを引き続き重ねている。

ガイドラインのダウンロードは、下記のURLへ

<http://www.meti.go.jp/press/20080729002/20080729002.html>



ISOで進化する
組織紹介

「建設を通じ社会に貢献する」を社訓に、信頼と期待に応える

菅野建設株式会社

福島県内を中心にして民間の建物や住居をメインに設計・施工。地域に根ざした企業として、地域とともに歩む菅野建設株式会社。創業51年目の1998年にISO9001認証取得し、企業活動に役立てている。代表取締役の菅野日出喜氏にその活用方法や今後のビジョンなどについて話を聞いた。

社屋外観



■組織概要

創業:1947年11月
代表者:代表取締役 菅野 日出喜
本社:福島市新町6番33号
事業内容:建築物の設計及び施工
資本金:4,500万円
従業員数:42人

■運用システム

[ISO 9001]

●品質方針

当社の社訓

- 一、社業を通じ社会の進歩に貢献する
- 一、経営の革新と技術の開発に努める
- 一、建設的視野に立ち顧客の繁栄に協力する

の理念に基づき

業務の遂行にあたり、その中で特に品質に関し方針を定め、社内全員に周知徹底し、実行され維持される事を誓う。

品質方針

顧客満足を目指し、そのニーズを把握して継続的改善を行い、良質な仕事を提供して社会に貢献する。

社長は、上記【品質方針】が組織に伝えられ、理解されることを確実にするため以下の基準を実施する。

- 1) 年度始め(5月)に、品質方針に基づく年度品質目標を定め、朝礼にて全社員に発表する。また、マネジメントレビュー(年2回)を実施し、品質方針及び年度品質目標が継続して適切であるかを見直し、必要な場合、改定を行う。
- 2) 品質方針、年度品質目標を各部署、作業所に掲示して啓蒙・理解を図る。
- 3) 全社員で品質マネジメントシステムを確実に運用する。又システムの有効性を確認し、継続的改善をしながら顧客に満足する建築物を提供する。

2002年7月23日
代表取締役 菅野 日出喜

ISOは企業成長の糧。技術力の証でもある

「地域の建設会社にとって、社員の顔がお客様に見えないと、仕事の依頼をいただけません。

社員の顔とは、社員の技術力といいかえることができます。それがきちんと伝わって初めて、工場なら二期工事、お店なら増築の時、『あの現場監督をお願いします』というお声がかかるようになります。

特にお客様にとって、住まいは一生で一度の大きな買い物です。それを当社にまかせていただくためには、常に技術力を磨き、責任をもち、手順を踏んで作業をして

いることが求められます。その証がISOマネジメントシステムだったのです」

菅野建設株式会社は、菅野氏の父である喜重氏が1947(昭和22)年に創業。戦後の復興、高度成長の中で業績を伸ばしてきた。

「父が43歳の若さで他界した後は、私の母が社長になり、続いて私が後を継ぎました。この時代に当社が誇れるものは、社員と社員のもつ技術力だけでした。そこで、社員

の技術力向上のために様々な講習会や勉強会に行かせました。

ISOに取り組む時も、統一したシステムを構築して企業の糧にするのは当然だというピュアな思いで取り組んだのです。その集大成が



代表取締役
菅野 日出喜氏

輸入住宅のモデルハウスだった
建物を事務所の一部に活用。

分厚いマニュアルでした」

企業を見つめ直す目標。 検証しながら前に進む

同社では「施工検討委員会」を実施。製品に対する目標の設定や予算の決定が行われ、人材育成のための教育や訓練と相まって、現場力を鍛える原動力となっている。

「仕事が終わると、『完成工事検討会』を開いています。認証取得以前は、現場監督が自分だけで完結させていたことも、この検討会によって全員で見直しがされるようになりました。何がよくて、何が悪かったか、20数項目あげて、ミスやクレームも含め、社員の前で発表しなければなりません。情報を共有でき、次の仕事に活かせるようになっていきます」

同社では、経営者である菅野氏による

「年度品質目標」のもとに、各部門が「部門目標」を設定。技術水準の向上や顧客満足の向上をめざしている。

「毎年作成するのに苦しんでいますが、自分たちの仕事を見つめ直すための目標ですから、知恵を絞って考えています。これで間違いないのだ、これでよかったのだと確認し、検証しながら進んでいきたいという思いがあります。

個人目標もあります。わずか数



行かも知れませんが、その中に、たくさんの言葉が隠れているのだと思うと、私はうれしくなります。ISOによって、社員の意識が向上していきました」

今まで以上に環境を意識。 EMS認証取得をめざす

同社の次の目標がISO14001の認

に自然を破壊しかねません。

今から十数年前、私が福島県の建設業協会の青年部の会長をしていた時のことです。新潟と群馬の青年部の方たちといっしょに尾瀬に行きました。

環境について考え、私たちの仕事について見つめ直すためです」

尾瀬の長蔵小屋の女主人に講演をお願いしたところ、建設業者が環境に目を向けたことに対し、こんなうれしいことはないといってくれたそう。その笑顔が今でも菅野氏の心に残っているという。

「地場の建設会社は、地域とともに歩んできた歴史があります。これからの当社の使命は、地域の方々の要望にお応えしながら、利益を還元していくとともに、環境になるべく負荷のかからない企業活動を展開していくことです。

ISO9001を根幹とした上で、社員一人ひとりが自然とのバランスを考慮して行動し、今まで以上に皆様の暮らしに貢献できたらと考えています」



お客様が住まいの模型を見ながら、建築家を選べるスタジオも開設。

証取得だ。建設業界にとって、企業の存続には、地域への貢献と環境との調和が大切であると菅野氏は強調する。

「建設業は、ものをつくる代わり

社長年度品質目標

2008年度	作業時間	効率3%アップを図る。
2007年度	顧客満足の為	自分の作業の改善点を見つける。
2006年度	5%の合理化	ムダのない作業で優良な製品を実現する。
2005年度	技術・知識の向上	コストに反映させる。

EMSの有効活用のために

小野 隆範 (有)小野技術士事務所 取締役所長
CEAR 環境マネジメントシステム主任審査員
JRCA 品質マネジメントシステム主任審査員

環境マネジメントシステム（EMS）とは、トップがたてた環境方針を達成するための仕組みです。環境方針は、何よりもまず、トップがEMSを導入しようとした時の狙い及び環境に対する想いを反映したもののはずです。まさか、規格要求事項に合わせることを優先して方針を作っていないでしょうね？

組織の課題解決となる目的・目標を設定すること

EMSは本来業務と別物ではありません。EMS構築の際、最初に著しい環境側面並びに適用される法的及びその他の要求事項を特定しましたが、これは、組織にとっての課題及びリスクが何かを決定するためでした。この課題・リスクを正しく把握し、それを解決するための適切な目的・目標を設定していること、これが、EMSの有効活用の基本です。これができていなければ、有効性はあまり期待できません。

事務所活動における環境側面の適切な把握

まず課題把握が適切でしょうか？
本社あるいは事務所活動などを審査するとき、著しい環境側面として、紙・ゴミ・電気という定番のものしか特定されていな

いケースが時々あります。本当に、これが組織の重大な課題なのでしょうか？ これらは、本来業務を行うために使用するものに過ぎません。本社の本来業務とは、組織の戦略や生産計画を決め、関連事項を事業所に指示することを含みます。ここで、ムダや手戻りを生じていませんか？ トップランナーになるために必要な課題を明確にしていますか？ これがうまくでき上がっていないと、他組織に遅れをとり、結果として事業所などの資源ムダや余分なエネルギー消費につながってしまいます。すなわち、本社における環境側面とは、本来業務の、特に他事業所などへ影響を及ぼしている側面を捉



システムが有効であれば、
目的・目標が達成され、環境が改善され、
コンプライアンスが得られているはずです

えることが肝要です。そのような環境側面の例を表に示しておきました。

アウトプットからEMSの有効性を見る

上記の課題及びリスクを改善するために設定された目的・目標が達成できたかどうか、法規制等が順守されたかどうかを監視・測定することが大変重要です。もし、システムが有効であれば、目的・目標が達成され、環境が改善され、またコンプライアンスが得られているはずですが、マネジメントレビューへ「環境パフォーマンス」をインプットすることが求められていますが、まさに環境がよくなったかどうかをトップに報告することを意味します。つまり、システムを運用した結果（アウトプット）をよく観察しなければなりません。形だけをつくり、その手順通りに実施しているかどうかのみを確認するのでは不十分です。もし、アウトプットとして計画通りの結果が得られなかった時は、システム上の問題があるのかもしれない。従って、原因を、それも本質的な原因を探っていく

ことが肝要です。この問題点に対して、根気よくチャレンジしていけば、EMS

は有効に活用されることになり
ます。

■ 本社における環境側面の例

部門	業務名	環境側面 (両方またはどちらか)		環境影響
		環境配慮向上・改善課題 (トップに近づくため)	顕在／潜在的 リスク・ムダ	
経営企画	経営戦略	環境配慮新製品開発戦略	開発遅れ、 開発ミスによる手戻り	天然資源節約／枯渇 地球温暖化抑制／促進
営業企画	販売促進	環境配慮製品の提案・拡販計画		天然資源節約 地球温暖化抑制
購買	購買	グリーン購入、供給者の環境認証 取得の促進	供給者の負担増	天然資源節約／枯渇 地球温暖化抑制／促進
流通管理	物流管理	流通委託先での輸送効率の向上		天然資源節約 地球温暖化抑制
〃	〃	梱包の簡素化、通い箱の活用		天然資源節約 廃棄物削減
総務	事務所管理	周辺の清掃		生活環境の改善
生産管理	生産計画	精度よく効率的な工場生産計画	生産計画のまずさによる 在庫増大	天然資源節約／枯渇 廃棄物削減／増加

● Training Report

品質・環境マネジメントシステム審査員研修会報告

(財) ベターリビング システム審査登録センターでは、 審査員の能力向上をめざし、年間十数回の研究会、研修会を開催している。

10月3日に開かれた研究会では、「土木・設計業界の最新動向と審査のポイント」をテーマに集まった品質マネジメントシステム審査員が、総合評価落札制度の導入によるISOマネジメントシステムのポイント、土木・建設現場における審査の注意点などについて専門性の高い研究成果の発表を行った。

また、品質・環境合同で開かれた10月17日の研修会では審査計画立案時の留意点、審査において実践していること、

等、ISO-MSを組織の事業に有効活用してもらえるために審査登録システムに必要と考えられる事などについて検討が行われた。

(財) ベターリビング システム審査登録センターの審査員は、こうした研究会や研修会を通して最新の情報を入手し、審査員同士で審査方法について検討するなど、組織の満足を得られる審査をめざしている。

特集 ISO 9001:2008追補 詳説

本特集は、ISO 9001:2008 追補に関する正しい情報を関係者に一早く紹介することをねらって、IS（国際規格）発行のタイミングにあわせて企画した。ISO/TC 176 国内委員会委員長の飯塚悦功東京大学大学院教授には、2000年版発行後のTC 176における議論について時系列で紹介していただき、追補になった経緯などを紹介してもらおう。もちろん追補の特徴などを含めた全体概要も詳しく解説してもらおう。財団法人日本適合性認定協会には、認定機関としての追補発行に伴う対応、とくに移行審査（移行手順）や移行期間などISO 9001 第三者認証制度における留意点を詳しく聞いた。

ネットからのお申し込み <http://www.isos.co.jp> 注文書送信先：FAX番号 03-3519-2211

※ ご希望の品をお送りするときに請求書、郵便振替用紙、振込銀行口座案内を同封いたします。※売り切れの場合は何卒ご容赦ください。

貴社名				ご住所	〒	
ご所属						
ご氏名				TEL.	FAX.	
<input type="checkbox"/> 「月刊アイソス」年間購読申込				月号から		
<input type="checkbox"/> 「月刊アイソス」単品購読申込				年	月号	部
【月刊アイソス購読料】■1年間 16,000円（12冊 税・送料込）■単品1冊のみご購入（1冊1,400円 税込・送料120円別）						
TEL. 03-3519-2210 FAX. 03-3519-2211 URL http://www.isos.co.jp E mail: info@isos.co.jp 株式会社 システム規格社 〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目4-4 小里ビル 2F						

本誌は、組織から受領した経営者及び「品質／環境マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、中央宣興株式会社に「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。
 弊センターは、同社との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.77 2008年11月7日発行
 発行 財団法人 ベターリビングシステム審査登録センター
 代表者:センター長 有馬正子
 担当:企画管理部
 TEL:03-5211-0765 FAX:03-5211-0594
 ホームページ:<http://www.cbl.or.jp/>

